

医学研究リテラシー I

ナンバリング	M3-S1-G02
--------	-----------

責任者・コーディネーター	医学教育学講座地域医療学分野 伊藤 智範 教授		
担当講座・学科（分野）	地域医療学分野、医学教育学分野、リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、基盤的研究部門、看護学部看護専門基礎講座		
担当教員	伊藤 智範 教授、遠藤 龍人 教授、佐藤 洋一 名誉教授、鈴木 悠地 特任准教授、若井 淳 講師		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 6コマ 12.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 2コマ 4.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師に求められる研究力を育むためのリテラシー科目である。座学と基礎実験の手ほどきで構成される。①初年次ゼミ、②情報リテラシーおよび③多職種連携のためのアカデミックリテラシーのコースで会得した知識と技能をもとに、研究に特化したリテラシーの基礎を学ぶ。座学は、研究リテラシーII（研究室配属）の事前講義に該当する。実験の基本事項を学び、臨床研究法を理解し、医学研究を進めるために必要な事項を習得する。

・教育成果（アウトカム）

医学研究リテラシー概要と医学研究の歴史を講義で学ぶことで、基礎実験・臨床研究の適切な方法を説明できるようになる。
 基礎実験の手法を実習することで、動物の取り扱い方法とルールを説明できるようになる。
 倫理審査の必要性和研究計画書作成方法を理解することで、倫理申請と利益相反開示を説明できるようになる。
 医学研究倫理と歴史を学ぶことで、医学生として社会に信頼される行動・研究をする意義や重要性について説明できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,7 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療倫理・研究倫理の原則を説明できる。
2	文献検索の方法を説明できる。
3	医学研究英文論文で記述されている内容を説明できる。
4	研究手法を学び、その適応と要約を説明できる。
5	基礎実験に必要なルールと動物の取り扱いについて説明できる。
6	研究者の基本的責任と行動規範・研究活動への姿勢等を説明できる。
7	研究分野の特性に応じた、研究データとなる実験・観察ノート等の記録媒体の作成（作成方法等含む）・保管や実験試料・試薬の保存について説明できる。
8	論文作成の基礎を学び、論文作成の際の各研究者間における役割分担・責任関係の明確化について説明できる。
9	利益相反の考え方や個人情報保護・守秘義務について説明できる。
10	臨床研究の研究計画書と、倫理申請・利益相反開示について説明できる。

11	医学研究の歴史と研究不正について説明し、医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。
12	動物実験倫理について自分の意見を述べるができる。
13	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につけることができる。

・ 講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/10(金)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	研究室配属総論：学生が研究をする意義と求められるリテラシー	1,2,4,7,8,13	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上） 【事後学修】当該部分の過去試験問題への回答をwebclassで行う。この問題について、事後学習を行う。 【ICT】WebClassで確認問題を回答する
講義	4/17(金)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	医学研究における倫理申請	1,6,8,9,10	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上）
講義	4/24(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学1 「実験動物学総論」	5,12	【事前学修】webclassへアップしたスライドを読み込んでくる（30分以上） 【事後学修】動物実験について、肯定的な意見と否定的な意見の両方を検索し、自分の考えを述べられるようにする（30分以上）

実習	5/1(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学2 「ラットの取扱い」	5	【事前学修】 実験動物学1の時に配布する資料を読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 実習で学んだ動物の取扱い方法について、様々な要点をノートにまとめて記録しておく(30分以上)
実習	5/8(金)	1	基盤的研究部門	若井 淳 講師	実験動物学3 「動物実験倫理」	12	【事前学修】 実験動物学1の時に配布する資料を読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 実習中にグループ内でディスカッションした内容について400字程度でまとめて提出する(60分以上)
講義	5/12(火)	1	リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	鈴木 悠地 特任准教授	EBMの手法 基礎研究・医学研究を実行することの意義	2,3,4,13	【事前学修】 webclassへアップしたスライドを読み込んでくる(30分以上) 【事後学修】 EBMの概念について、講義資料または参考図書で確認する(30分以上)。
講義	5/15(金)	1	看護学部看護専門基礎講座	遠藤 龍人 教授	臨床研究特論	3,4,10	【事前学修】 データサイエンスⅡで履修した「交絡とバイアス」、「回帰分析法を用いた交絡因子の調整解析」について復習する(60分以上) 【事後学修】 回帰モデル・傾向スコアを用いた交絡の調整、解析対象集団、ITT解析が必要な理由について要点をまとめる(60分以上) 【ICT】WebClassに講義資料をアップする

講義	5/18(月)	3	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	医学研究の歴史	2,11	
----	---------	---	---------	------------	---------	------	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	医学的研究のデザイン 第5版	Browner WS (木原雅子訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2024
参考書	「医療統計力」を鍛える!	千葉康敬	総合医学社	2015

・成績評価方法

【総括評価】
 中間試験：MCQによる試験（7割）を行う（到達目標1～5,7～11）。ほか、レポート作成（3割）を行う。合計100点を満点とする。
 レポートは、①実験実習後レポート（400字以上（1割）：到達目標12）②科目レポート（1000字以上（2割）：到達目標6,11～13）で評価する。

【形成的評価】
 講義後にミニテストを行う。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～5、7～11	1、2、4、7	70						70
6、11～13	1、2、4、7		30					30
合計		70	30					100

・特記事項・その他

配属前に、研究倫理に関するe-learningを指定する期間内に完了すること。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本科目では、事前事後学修以外に各回3時間の自己学修を要す。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			